JGS 関東　新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会
第 10 回　議事録

■　日時：2020 年 6 月 18 日（水）　14：00～16:30
■　場所：地盤工学会　地下階大会議室（Web 会議含む）
■　出席者：桑原（パイルフォーラム），青木（竹中），加倉井（パイルフォーラム），阿部（東京ソイル），柏（国総研），片山（東邦地下工機），小坂井（MFR），西（安藤ハザマ），三反畑（安藤ハザマ），古垣内（東急），張（東急），嶋田（大林），森（熊谷），福田（戸田），長澤（清水），栗本（清水），原（西松），伊藤（東亜），小林（大成），高岡（三井住友），梶野（長谷工），土屋（竹中），宮本（東洋テクノ），木谷（三谷セキサン），田中（大洋基礎），小川（旭化成），細田（ジャパンパイル），山下（不動テトラ），菅原（丸建興業），野坂（八州建機），媚山（新潟商事），山本（地盤試験所）

記録者：福田
注：____欠席

■　提出資料：

10-0-1　JGS 関東既存杭撤去第 10 回議事次第
10-0-2　2020_既存杭委員会名簿案_200615
10-1　第 9 回既存杭の撤去に関する研究委員会_議事録（案）
10-2　既存杭撤去埋戻しガイドライン目次案_200601
10-3-1　WG1_ガイドライン案_工程案と追加原稿_200611rev
10-3-2　WG1_ガイドライン案_200611rev
10-4-1　WG2 第 9 回議事録案_20200605
10-4-2　WG2 今後の進め方 200616 修正（古垣内）
10-4-3　W2（subWG 名簿案）20200612
10-5-1　第 10 回(20200609)WG3 議事録
10-5-2　ＷＧ３ガイドライン案 20200617
10-5-2　ＷＧ３ガイドライン既製杭案
10-5-3　WG3_新設杭の設計の考え方（案)20200617
10-5-4　参考文献__AIJ 基礎指針
10-5-5　参考文献__杭撤去地盤
10-5-6　参考文献_AIJ2020_柴田_水平地盤反力特性_その２
10-6-1　2020 年地盤工学会_既存杭撤去埋戻し（その 1）_200320
10-6-2　2020 年地盤工学会_既存杭撤去埋戻し（その 2）_200311
10-6-3　2020 年地盤工学会_既存杭撤去埋戻し（その 3）_200313
10-6-4　2020 年地盤工学会_既存杭撤去埋戻し（その 4）_200311

議事題

1.　前回議事録の確認（資料 10-1）

・前回議事録は確認の上、承認された。

2. ガイドライン案　WG 進捗状況報告

各 WG より、説明があった。

1)　WG1 に関して（資料 10-3）

・ガイドラインの 2 章、6 章について説明があった。2 章は執筆がほぼ完了している。
　→委員会内で確認したいので、体裁など修正次第全体に資料を送付してほしい。
・アンケート調査に関しては、JGS 大会の内容を主として整理している。
・6 章に関して、どのような情報を記載すべきか考えがまとまっていない。
　→2.5　施工管理記録（資料 9-3-2 中に記載されている）をもとに必要な情報を 6 章に記載すべきではないか。また、他 WG と内容が重複する部分もあるため、調整が必要である。
　→資料 9-3-2 の内容を確認し、執筆を進める。
・年末までには 2 章および 6 章の執筆を完了する予定で進めている。
・WG1～3 の共通事項として、ガイドライン執筆の際は提示したフォーマットで執筆を進めていただきたい。

2) WG2 に関して（資料 10-4）

・5/29 に実施した WG2 の打合せで。3 つの SWG を設置することが決まり、ガイドライン 3 章および 6 章の執筆を進めていく。
・3.1 は現地盤を目指して埋戻しを行うが、課題が多い示したいと考えている。
　→目標とする強度も示したい。古垣内 WG2 主査を中心に執筆を進める。内容が 7 章と重複する可能性がある。
・3.2 は具体的な事例を記載するのか。
　→具体例を数例記載する。また、JGS 大会論文を参考に埋戻し方法と調査結果の関係もまとめる。
・3.3 は埋戻し部および周辺地盤の調査法と各調査の適用範囲について記載する予定である。
　→施工管理時の事前配合試験などの地盤調査前の項目を追加していただきたい。
・6 章は 3 章で記載した内容をもとに構成する。
　→6 章は設計条件や新設杭の情報も必要ではないか。
　→上記の情報をもとに撤去・埋戻しを実施することが理想ではあるが、現状の施工ではそのような情報の共有はないことがほとんどである。

3) WG3 に関して（資料 10-5）

・4 章の内容について説明があった。
・既製杭は資料 10-5-2 の項目について執筆を進めていく。
　→中堀り工法は原則工法変更となるのか。施工の注意点を述べる程度でよいのではないか。
　→注意点を述べる程度に留める。
・障害物とは既存杭や地下躯体などを意味しているのか。
　→撤去後の埋戻し孔を意味している。新設杭施工に干渉する既存杭は全て抜かれた状態を想定している。
・評定工法との整合に関して、学会委員会であるので技術的な内容でまとめてほしい。
・鋼管杭や回転貫入杭の取り扱いをどうするか。
　→アンケートの項目では想定してない。
　→回転貫入杭でのトラブルは実際にあるのか。

→実際にトラブルは発生しているが，再施工は他の工法に比べて容易であると考えている。
→鋼管杭（回転貫入杭）の記載が必要か検討してみる。
・場所打ち杭はアンケート結果を参考にトラブル事例を分析することを考えている。
→「場所打ち杭」を「場所打ちコンクリート杭」とする。
・4 章に関しては、今後議論する項目が多いことが考えられる。内容がわかる資料を提示していただきたい。
→次回の委員会で資料を用意する。
・既存杭撤去孔に干渉する新設杭の設計上の留意事項について説明があった。
→この設計方法は杭撤去後の地盤調査をしない場合の概略判断をするための方法か
→そう考えている。
・新設杭と既存杭撤去孔について図は今後精査する。
→既存杭の径が大きければ設計の考え方は変わってくるのか。
→基本は変わらないと考えている。
→既存杭撤去に伴い、地盤が緩むことを考えると「C 完全干渉」であっても影響なしとは言い切れないのではないか。
・資料 10-5-5 で「埋戻面積比」の用語がある。用語の定義を確認してほしい。
・既存杭が群杭の場合の対応はどうするか。既存杭間で地盤がゆるんだ調査報告もある。
→設計での判断は難しいか。

4）その他
・存置杭の法的解釈はガイドラインに記載する必要はあるのか。
→記載は現時点では考えていない。日建連のガイドラインでよくまとめられているのでそれを紹介する程度に留める。

3. 今後の予定 その他
・各自資料 10-0-2 の委員会名簿を確認し、所属などの変更があれば幹事に連絡すること。
・今後も Web 会議を行う場合、会場（地盤工学会）側の音声が聞き取れない場面があった。マイクの近くで話すなど対応をお願いしたい。
・PC 側の参加者は発言する以外はミュートに設定するようお願いしたい。

・次回：2020 年 8 月 26 日（水）14:00～17:00　　場所　地盤工学会
・次々回：2020 年 10 月 22 日（木）14:00～17:00　　場所　地盤工学会
・次々次回：2020 年 12 月 16 日（水）14:00～17:00　　場所　地盤工学会